



ファミリーコミュニケーションデイ企画

あいかわ 自然観察会① 終了報告

神奈川県立 愛川ふれあいの村 主催事業

5月6日（日）

青空の下、主催事業『あいかわ自然観察会』を開催しました。6組10名の参加者とともに村の生き物を発見、観察しました。



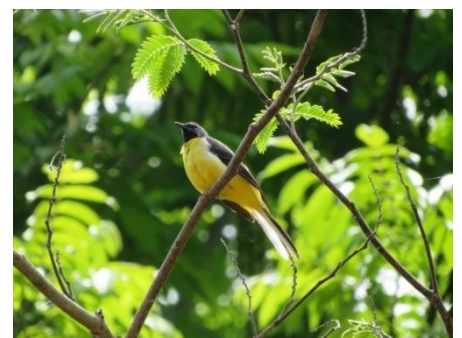
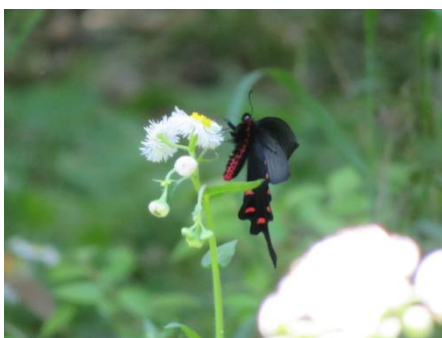
はじまりの会では、パズルを行い緊張をほぐすとともに、村で見ることができる生き物への期待感を高めます。まずは事務所前のカルミアを観察。おしべを跳ね上げて花粉を飛ばす仕組みを学びました。学芸員である吉田職員の詳しい解説もあり、参加者は自然にひきこまれていきます。



上を見上げれば数十メートルはあるメタセコイアの先端付近でハシブトガラスが子育てをしています。山野草園ではエビネやイカリソウ、ミヤコワスレ、ユキノシタ、シャガなど色とりどりで変化に富んだ形の花を観賞しました。「ここにイカリソウがあるよ。」と参加者同士の何気ないやり取りの中にも、自然の中で徐々に距離が縮まっていくところを垣間見ました。



野外炊事場方面へ上がっていく途中にブナがあります。ブナと他の植物の葉の違いを説明すると、早速近くの木の葉を観察。「本当に違う。」と熱心に葉を見比べていました。また、オトシブミの揺籃（ようらん）を見つけて「あら、ラブレターが入っているのかしら。」と中をのぞいてみる場面もありました。アカスジキンカメムシを発見。「このカメムシは成虫になるととてもきれいですよ。」と説明するとカメムシにも少し興味を持った様子でした。時間が経つにつれ、徐々に観察力がついてきたようです。



他にも数種の蝶が飛び交う村内。トチノキの葉は手のひら状のものを1枚と数える（掌状複葉）という説明にも、皆さん熱心に耳を傾けていました。おわりの会の最中にはキセキレイ（はじまりの会で行ったパズルの絵）が現れて観察することができました。様々な動植物を発見して、観察する楽しさを伝えられたと思います。普段は通り過ぎてしまうような道端や目もくれないような公園の雑草の中にも可憐に咲く花・たくましく生きる虫がいます。是非、そんな動植物に目を向けてほしいです。そして、この観察会を機にまた当村へ足を運んでいただけたら幸いです。あいかわ自然観察会は一部を除き、毎月第1日曜日に行います。

【文責：石川 写真：吉田・愛川ふれあいの村スタッフ】